

見

見

見

見

見

見



あとがき

この話は実際に取材させていただきお話を伺った事をまとめております。

ただし、年代や場所などはフェイクを交えております。

この話をまとめるにあたり、実際に傷跡の写真を確認しています。

また、表紙の絵は当サークルが制作しておりますが、この時の写真の傷跡の位置と深さなどは出来る限り再現できていると考えられます。が、こちらも特定を避けるために傷跡の位置は少しだけずらしております。

最初はA子さんの髪の毛や爪を盗っていった方が呪いの類を行い、これが伝染したのではないかと考えストーリーを構築していったのですが。

結末を考えれば終焉を奇麗に迎えた事実もある為、見えない何かを取り払うという結末へと変更を加え、考察してくと言うサスペンシ的な要素を加えております。

ただ、取り払ったものが何者なのかということや、その呪い(まじない)の類に関しては未だに判りません。

が、1つだけ理解できるのは日本式の呪術や呪詛の類ではなくオリジナルとして構築しようとしたのではないかと私は考えております。

特にオカルトやホラーのアニメや小説などのフィクションが出始めるころには必ずと言っていいほど、こういう事例は確認できるからです。

日本古来から呪い(まじない)というモノは祝詞(のりと)とともに神々への献上の言葉とされます。

そのため私利私欲に利用する物であっても同じ漢字を使い呪い(のろい)とされます。

が、元を辿れば見えざるモノ達への言葉となり。

時に人を助け、時に人を貶めるための言葉として存在するわけです。

昨今では人と人との繋がりを蔑ろにし、ネットでのつながりを大事にしていこうとする時代ですが、根底である人と人との繋がりというモノは言葉や態度であったり礼儀、礼節は変わらないものであると信じていたいものです。

最後に。この呪いを行った方の安否は当方は知りたくもありません。古来から呪いをマガイモノとして行ったものの末路という者は大体の結末は同じような結末をたどるものです。呪いは安直にするべきではございませんので、決してやらないようにお気を付けください。

※サンプルにあたり、最初にあとがきを載せております。こちらを読んだうえでこちらの作品を購入していただければ幸いです。

あしからず。